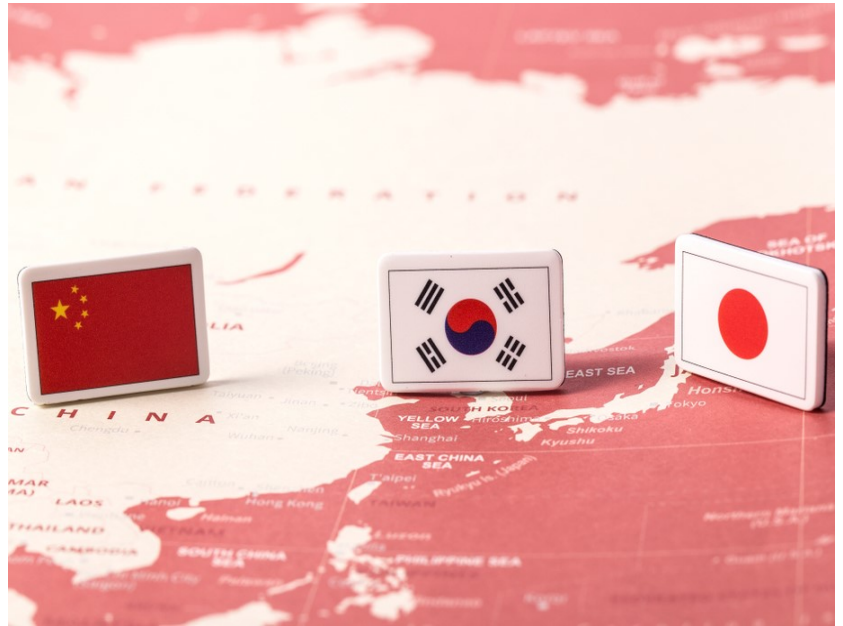


## 知見の囲炉裏端

### いろいろばた 観望庵 Vol.25



高島 秀行



先日、久し振りにサンデル教授の白熱教室をTVでみた。日、中、韓の大學生数人づつの三か国を繋ぐテレワーク形式で、テーマは、「民主主義は時代遅れか？」といった、挑発的なものであり、多分に中国を意識したものであった。

ウクライナ戦争真っ只中で、著名な大学の学生達が、どう思っているか興味があつた。

民主主義は、自由、法による統治を骨格とするが、ITと多様化の荒波の中、いろいろ綻びが出て、解決が難しい課題が山積していることは間違いない。

例えば、ツイッターによる悪質な中傷の拡散など、相当問題があっても表現の自由との兼ね合いで、犯罪か否かで抹消するには壁が高い。名誉、尊厳、精神的苦痛というものは定量化、客観化が難しい。慰安婦像の設置も、止められなかった。

しかし、それにしても、それと対峙する、中国、ロシアのような国の体制を権威主義と呼ぶのならば、その信奉者である中国清華大学の学生が、中国は西欧式とは異なる民主主義、というのには驚いた。国のため、国民のために尽くす幹部たちは、西欧のような選挙ではないが、選ばれていて、それが共産党の一党独裁のもと、多数の国民の幸せのため貢献している、と述べた。

西欧の民主主義に対抗するのがロシア・中国に代表される権威主義になる。権威主義は、独裁であり、反対派はその気配があれば直ぐに鎮圧される。これを正面から非としない国も少なからずある。この妖怪のような権威主義のもとに生きて幸い哉。

その日本においても、安倍元首相が凶弾に倒れた。個人であれ国であれ、至近距離からの不意打ちに会っては、専守防衛にも限りがあるろう。

観望庵は、安倍氏の悲願であつた、現行の「憲法」の早期改正を改めて痛感し、合わせて氏のご冥福を祈るばかりである。偉大な政治家であつた。